連続一様分布する確率変数の和

(Sums of Continuous Uniform Random Variables)

緑川童一*

 $X=x_i (i=0,\ 1,\ 2,\cdots,\ n)$ は、それぞれ独立で、区間 0 x_i 1 における一様連続分布 f(X) の確率変数とする。

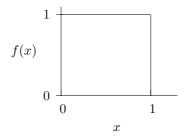


図 1: 確率密度関数 f(x)

このとき、 $z = x_1 + x_2 \cdots + x_n$ の確率密度関数を求める。

1 n=2 の場合

$$f_2(z) = \int_0^1 dx_2 \int_0^1 \delta(z - x_1 - x_2) dx_1 \tag{1}$$

まず最初に、 x_1 についての積分をおこなう。次に、 x_2 についての積分をおこなう。 $x_1=z-x_2$ の積分領域は、0 x_1 1 だから、0 $z-x_2$ 1。ゆえに、z-1 x_2 z。これと 0 x_2 1 を比較して、

$$max\{0, z-1\}$$
 x_2 $min\{1, z\}$

すなわち、0 z 1 のときは0 x_2 z , 11 z 2 のときはz-1 x_2 1 となる。ゆえに、

$$f_2(z) = \begin{cases} \int_0^z dx_2 = z & 0 & z & 1\\ \int_{z-1}^1 dx_2 = 2 - z & 1 & z & 2 \end{cases}$$
 (2)

を得る。

^{*}Shoichi Midorikawa

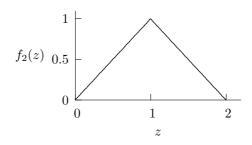


図 2: 確率密度関数 $f_2(z)$

2 n=3 の場合

 $z = x_1 + x_2 + x_3$ とおくと、0 z 3

$$f_3(z) = \int_0^1 dx_3 \int_0^1 dx_2 \int_0^1 \delta(z - x_1 - x_2 - x_3) dx_1 \tag{3}$$

まず最初に、 x_1 についての積分をおこなう。次に、 x_2 についての積分をおこなう。 $x_1=z-x_2-x_3$ の積分領域は、0 x_1 1 だから、0 $z-x_2-x_3$ 1。ゆえに、 $z-1-x_3$ x_2 $z-x_3$ 。ところが、0 x_2 1 だから、

$$max\{z-1-x_3, 0\}$$
 x_2 $min\{z-x_3, 1\}$

すなわち、

- $(A) x_3 z 1$ のとき、 $z 1 x_3 x_2 1$
- (B) z-1 x_3 のとき、0 x_2 $z-x_3$

積分領域が存在するためには、 $z-1-x_3-1$ 、かつ、 $0-z-x_3$ 。すなわち、 $z-2-x_3-z$ でなければならない。これと、 $0-x_3-1$ を比較して、

$$max\{z-2, 0\}$$
 x_3 $mini\{z, 1\}$

また、z=1 のとき、(A) を満たす x_3 は存在しない。 1=z-1 のときには、(B) を満たす x_3 は存在しない。

 $oldsymbol{0}$ $oldsymbol{z}$ 1 の場合 z-1 x_3 かつ 0 x_3 z だから、0 x_3 z。

$$f_3(z) = \int_0^z dx_3 \int_0^{z-x_3} dx_2 = \frac{z^2}{2}$$
 (4a)

1 z 2の場合 0 z₃ 1だから、

$$f_3(z) = \int_0^{z-1} dx_3 \int_{z-1-x_2}^1 dx_2 + \int_{z-1}^1 dx_3 \int_0^{z-x_3} dx_2 = -z^2 + 3z - \frac{3}{2}$$
 (4b)

2 z **3** の場合 x_3 z-1 かつ z-2 x_3 1 だから、z-2 z_3 1。

$$f_3(z) = \int_{z-2}^1 dx_3 \int_{z-1-x_3}^1 dx_2 = \frac{1}{2}(z-3)^2$$
 (4c)

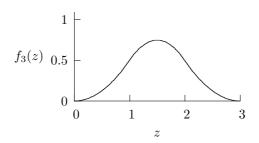


図 3: 確率密度関数 $f_3(z)$

3 n=4 の場合

(2) 式を用いると、

$$f_4(z) = \int_0^2 dy \int_0^2 \delta(z - x - y) f_2(x) f_2(y) dx$$

$$= \int_0^2 f_2(z - y) f_2(y) dy$$
(5)

となる。z=x+y で、0 x 2, 0 y 2 なので、当然のことながら、0 z 4 である。ところで、0 y 2 より、0 z-x 2。すなわち、z-2 y z。これと、0 y 2 を比較すると、

$$max\{z-2, \ 0\}$$
 y $min\{z, \ 2\}$

0 z 2 のときは、0 y z なので、

$$f_4(z) = \int_0^z f_2(z - y) f_2(y) \, dy \tag{6}$$

2 z 4 のときは、z-2 y 2 なので、

$$f_4(z) = \int_{z-2}^{2} f_2(z-y) f_2(y) \, dy \tag{7}$$

(6) 式は、更に 2 つの場合に分けられる。すなわち、0 z 1 の場合と、2 z 2 の場合である。

$$f_4(z) = \int_0^z (z - y)y \, dy = \frac{z^3}{6} \tag{8}$$

1 2 2 の場合

$$f_4(z) = \int_0^{z-1} (2-z+y)y \, dy + \int_{z-1}^1 (z-y)y \, dy + \int_1^z (z-y)(2-y) \, dy$$

$$= -\frac{1}{2}z^3 + 2z^2 - 2z + \frac{2}{3}$$
(10)

(7) 式は、更に 2 つの場合に分けられる。すなわち、2 z 3 の場合と、3 z 4 の場合である。

$$f_4(z) = \int_{z-2}^1 (2-z+y)y \, dy + \int_1^{z-1} (2-z+y)(2-y) \, dy + \int_{z-1}^2 (z-y)(2-y) \, dy$$
$$= \frac{1}{2}z^3 - 4z^2 + 10z - \frac{22}{3}$$

3 z 4 の場合

$$f_4(z) = \int_{z=2}^{2} (2 - z + y)(2 - y) \, dy = \frac{1}{6} (4 - z)^3$$
 (11)

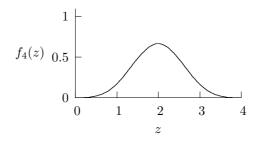


図 4: 確率密度関数 $f_4(z)$

4 中心極限定理 (central limit theorem)

いま、一様分布の密度関数 f(X) の確率変数 X を平均値 $\mu=\frac12$ が 0 になるように、変換 $Y=X-\frac12$ をおこない、n コの独立な確率変数 $Y_1,\ Y_2,\ \cdots,\ Y_n$ の算術平均 $\bar Y=(Y_1+Y_2+\cdots+Y_n)/n$ の確率分布

$$f_{\bar{Y}}(\bar{y}) = \int_{-1/2}^{1/2} dy_1 \int_{-1/2}^{1/2} dy_2 \cdots \int_{-1/2}^{1/2} dy_n \, \delta\left(\bar{y} - \frac{y_1 + y_2 + \cdots + y_n}{n}\right)$$
 (12)

を n が大きい場合に求める。

まず、デルタ関数の積分表示

$$\delta\left(\bar{y} - \frac{y_1 + y_2 + \dots + y_n}{n}\right) = \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} e^{ik(\bar{y} - (y_1 + y_2 + \dots + y_n)/n)} dk$$

を (12) 式に代入すると、

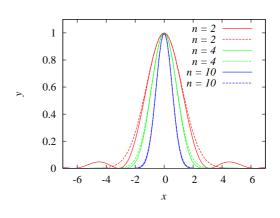
$$f_{\bar{Y}}(\bar{y}) = \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} dk \, e^{ik\bar{y}} \prod_{i}^{n} \left(\int_{-1/2}^{1/2} e^{-iky_{i}/n} \, dy_{i} \right)$$
$$= \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} dk \, e^{ik\bar{y}} \left(\frac{\sin\frac{k}{2n}}{\frac{k}{2n}} \right)^{n}$$

ところで、 $\left(\frac{\sin\frac{k}{2n}}{\frac{k}{2n}}\right)^n$ は、n が十分大きいときには、 $k/2n\approx 0$ で 1 となる鋭いピークを持つ k についての偶関数である。 $k/2n\approx 0$ 付近では、

$$\left(\frac{\sin\frac{k}{2n}}{\frac{k}{2n}}\right)^n \simeq 1 - \frac{k^2}{24n}$$

となるので、指数関数 $\exp\left(-\frac{k^2}{24n}\right)$ で近似することにすると、

$$\begin{split} f_{\bar{Y}}(\bar{y}) &\simeq \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} dk \exp\left[-\frac{k^2}{24n} + ik\bar{y}\right] \\ &= \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} dk \exp\left[-\frac{1}{24n} \left(k - 12in\bar{y}\right)^2 - 6n\bar{y}^2\right] \\ &= \frac{1}{2\pi} e^{-6n\bar{y}^2} \int_{-\infty}^{\infty} dk \exp\left[-\frac{1}{24n} \left(k - 12in\bar{y}\right)^2\right] \end{split}$$



ところで、

$$\int_{-\infty}^{\infty} dk \exp\left[-\frac{1}{24n} (k - 12in\bar{y})^2\right]$$
$$= \int_{-\infty}^{\infty} dk' \exp\left[-\frac{k'^2}{24n}\right]$$
$$= \sqrt{24\pi n}$$

図 5: $y = (\sin x/x)^n$ のグラフ (実線) と $y = e^{-nx^2/6}$ (点線) のグラフ

だから、

$$f_{\bar{Y}}(\bar{y}) \simeq \sqrt{\frac{6n}{\pi}} e^{-6n\bar{y}^2} \tag{13}$$

が成り立つ。これは、分散が $\sigma_n^2=rac{1}{12n}$ の正規分布である。一様分布の分散は、

$$\sigma^2 = \int_{-1/2}^{1/2} x^2 \, dx = \frac{1}{12}$$

なので、

$$\sigma_n^2 = \frac{\sigma^2}{n} \tag{14}$$

が成り立ち、(13) 式は、

$$f_{\bar{Y}}(\bar{y}) \simeq \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma_n^2}} e^{-\bar{y}^2/2\sigma_m^2}$$
 (15)

と書ける。ここで、 σ_n^2 は (14) 式で与えられる。